

「(仮称) 町田市子どもマスタープラン25-34」策定のための ヒアリング（コドマチヒアリング）の実施結果について

次期計画の策定にあたり、下記のとおり子どもを中心にヒアリングを実施しましたので、報告いたします。

1 目的

- (1) 「子どもにやさしいまち」の具体的な姿について意見をいただき、次期計画の基礎資料とする。
- (2) 2024年5月に実施したアンケート調査の補完として、当事者の率直な意見をいただき、市の取組の参考とする。
- (3) 市以外の取組の現状・課題を把握する。

2 対象

- (1) 子ども（子どもセンター、公募、ミニまちだ）
- (2) 大人（公募）
- (3) 若者（大学生）
- (4) 事業者



3 ヒアリング項目

項番	内容	子ども	大人	若者	事業者
1	「子どもにやさしいまち」の具体的な姿（目指すコドマチ）（案）※に対して、良いと思うところ	質問 1	質問 1	質問 1	—
2	「子どもにやさしいまち」の具体的な姿（目指すコドマチ）（案）※に対して、足りないと思うところや、入れてほしいこと	質問 2	質問 2	質問 2	—
3	あなたにとっての「子どもにやさしいまち」	質問 3	質問 3	質問 3	—
4	町田市における、子どもの居場所の確保	—	質問 4	—	—
5	町田市における、学校（授業以外）や地域などで子どもが意見を言ったり、決めたりする機会	—	質問 5	—	—
6	町田市の未来のまちづくりについて、大人に伝えたいこと	—	—	質問 4	—
7	自分の意見を町田市に言える機会	—	—	質問 5	—
8	子育てに対するイメージ	—	—	質問 6	—
9	子育て中の従業員に対して、ワークライフバランスの実現のために取り組んでいること	—	—	—	質問 1
10	子育て中の従業員のためにやりたいと思っていること	—	—	—	質問 2
11	市全体で「子どもにやさしいまち」を実現するために、市などと協力できること	—	—	—	質問 3

※ヒアリング時点の「子どもにやさしいまち」の具体的な姿（目指すコドマチ）（案）

項番	内容
1	・子どもの「やりたい！」がかなうまち ・子どもと過ごす喜びが広がるまち ・子どもの声があふれるまち
2	大事だよ！子どもの視点と子どもの声 誰もが笑顔で安心して過ごせるまち
3	子どもたちの視点と声に耳を傾け、誰もが笑顔で安心して子どもと共に過ごせるまち

4 ヒアリング結果

（１）子ども

①概要

子どもセンター

- 【対象】 各センターの子ども委員、来館中の子ども
- 【日時】 6月1日（土） 15：15～15：45
- 【場所】 各子どもセンター（ばあん、つるっこ、ぱお、ただON、まあち）
- 【方法】 各子どもセンターとオンラインで中継をつなぎ、開催する。5名程度のグループでヒアリング項目について話し合いを行う。グループワークは各館で行い、ヒアリングの趣旨の説明や、各館から出た意見の共有は、オンラインを活用し、全体で行う。
- 【参加者数】 37人（小学生17、中学生7、高校生10、大学生3）



公募

- 【対象】 概ね小学6年生～18歳
- 【日時】 6月9日（日） 11：00～12：00
- 【場所】 市庁舎（市民協働おうえんルーム）
- 【方法】 5名のグループで、ヒアリング項目について話し合いを行う。
- 【参加者数】 15人（小学生3、中学生3、高校生9）



ミニまちだ

- 【対 象】ミニまちだ（子どものための仮想のまちづくりを行うまち作り体験プログラム）に参加したことがある小学４年生以上
- 【日 時】６月９日（日） １４：００～１５：３０
- 【場 所】市庁舎（市民協働おうえんルーム）
- 【方 法】ヒアリング項目について話し合いを行う。
- 【参加者数】６人（小学生）



②主な意見

【質問１】コドマチ（案）良いところ

- ・ 「やりたい」が大切！！
- ・ 「やりたい」がかなうと嬉しい。
- ・ やりたいことがいっぱいできるまち。
- ・ 子どもがやりたいことがかなって子どもが楽しめるまち。
- ・ 「やりたい」の気持ちを尊重できるまちってステキ。
- ・ 「安心して過ごせるまち」が良いと思う！
- ・ 笑顔で安心できるのが一番良い。
- ・ 「誰もが笑顔」で過ごせるまちが良い。
- ・ 「誰もが笑顔」、みんなが笑顔だと笑顔じゃない人も笑顔になれるから！

【質問２】コドマチ（案）足りないところ

- ・ 「叶う」は違う。見つける、叶えられる、実現できる、挑戦できるほうが良い。
- ・ やりたいことが見つけられるまち（そもそもやりたいことがわからない）→色々な経験ができるまち
- ・ やりたいことを大人が全部するのではなく、子どもも自分でやりたい気持ちを出す。大人が考えることが正しい！と思う人もいるため、そういうのを減らして一緒に考える。
- ・ 子どもの「やりたい」を叶える時は、子ども主体＋αであってほしい。大人が１から１０まで準備しない。

【質問3】子どもにやさしいまち

- 子どもの「やりたい」が自由に言えるまち。
- 子どもだけでなく、大人と子どもみんなが楽しみながら歩けるまち。
- 子どもも安全に生活できるまち。
- 安心してすごせるまち（夜が怖い）。
- 子どもが自由に意見を言える。
- 大人と子どもが平等だと良い。
- 子どもたちの視点と声に耳を傾け、やりたいがかなう。誰もが笑顔で安心して子どもと共にすごせるまち。

（2）大人

①概要

公募

- 【対象】 18歳以上の市民
- 【日時】 6月22日（土） 10：30～12：00
- 【場所】 生涯学習センター
- 【方法】 4名のグループでヒアリング項目について話し合いを行う。
- 【参加者数】 8人



②主な意見

【質問1】コドマチ（案）良いところ

- 「誰もが」と入っているのがとても良い。
- 「子どもと過ごす」が良い。
- 「笑顔」「喜び」「安心」などポジティブなワードが良い。

【質問2】コドマチ（案）足りないところ

- 「やりたい！」が言える、言いたいと思えるようにならないといけないと思う。
- 世代を超えてやりとりができて、それをフィードバックできることが大事だと思う。

【質問3】子どもにやさしいまち

- 地区ごとのサポートがあったり、各種サポートがより身近に、より簡単に受けられるようになったりするまち。
- 「家庭」と「学校」以外の第三の居場所が色々あると良い。

【質問4】子どもの居場所

- 確保されているかといえば確保されているけど、もっと色々あっても良い。
- 静かな場所はあった方が良いが、それはそれとして、楽しめる場所もほしい。
- 子どもセンターで結構満たせると思うが、キャパシティを超えてしまっている。市外からも人が来ている。
- 本が読める場所は、もっと増やしたほうが良い。学校で決められた読書の時間では足りない。
- 移動図書館はあまり知られていない。町田はスポーツが盛んなため、公園や運動場のところに移動図書館が来れば、本に触れるきっかけになる。
- 公園は、ボール禁止のところが多い。ふらっとボールだけ持って行って遊べる場所がほしい。

【質問5】子どもが意見を言える機会

- ヒアリングとか含めて、意見を言う場があるのは知っているが、ほとんどの人は知らないため、結果的に「ない」ということになる。
- 意見を言いたい子どもや、偶然どこかの団体等に属している子どもは意見が言えるが、「言いたい」と思っていなくても意見を持っている子どもは言う先がない。
- 小学生が意見を言って叶える機会があると良い。
- SNSは匿名性があるが、意見を投げたままで返答がないとつまらない。
- 子どもが「意見を言える」と思えるように、早い段階から育てていく
- 子どもが意見を言える機会があることを、大人が知る必要がある。
- 子どもに対しても意見を聴くときにオープンな質問をして意見を聴く。
- ただ聞くだけでなく、形式を変えたりして実現できると良い。

(3) 若者

①概要

大学生

- 【対象】 玉川大学の学生
※子ども向けのボランティアを中心に活動している
大学公認サークル（無果汁 J u i c y s）の学生
- 【日時】 7月22日（月） 17：20～18：40
- 【場所】 玉川大学
- 【方法】 6名のグループでヒアリング項目について
話し合いを行う。
- 【参加者数】 12人



②主な意見

【質問1】 コドマチ（案）良いところ

- ・ 「やりたい！」がかなう＝主体性があるって良い！
- ・ 子どもとの時間に対する喜びを感じる。
- ・ 子どもの声があふれるまち
→近年、虐待が増加しているため、子どもが積極的に声をあげてSOSを出せるようになるのは非常に良い。

【質問2】 コドマチ（案）足りないところ

- ・ 地域住民とのつながり。
- ・ 地域の人たちにも見守られるまち（地域のつながり）。

【質問3】 子どもにやさしいまち

- ・ すべての子どもに遊べる場所があるまち。
- ・ 子どもたちが笑顔でたくさんの居場所があるまち。
- ・ 子どもたちがのびのびできるまち！
- ・ 「安心・安全」生活において大切！

【質問4】町田市の未来のまちづくりについて、大人に伝えたいこと

- 大人が子どもに対して見本を見せよ！
- 一度童心にかえって考えてみよう。
- 子どもに対する否定的な言葉をなるべく避けてほしい！なるべくポジティブワードで！
- 子どもの気持ちをちゃんと読み取る。
- 他世代が交流できる場をもっと増やしてほしい。
- 年齢関係なく話したり、相談したりできるようなワークショップがあると良い！（子どもも大人も）
- 外で遊べるスペースや機会がほしい。
- 子どもがトラブルに巻き込まれないまちにしてほしい。

【質問5】自分の意見を町田市に言える機会

- SNS（LINE、X、Instagram）、Google フォーム、ラジオなどの活用。
- 町田市ホームページに市民の意見を送れるフォームをつくる。
- 町田市 YouTube で、LIVE 配信する。
- 学校現場でのアンケートや意見箱。
- 公共の場にフリーボードを設置（黒板、ホワイトボード等）。
- イベントや地域交流でのコミュニケーション。
- シール形式のアンケート回答や大看板への付箋での意見添付。
- アンケート回答で奨励金をプレゼントのように、メリットや動機が必要。
- 子どももわかるように結果を可視化し、反映していることを伝える。

【質問6】子育てに対するイメージ

- 大変そうだけど、その数倍楽しそう。
- 子どもを持つことで、経済的な負担や、子どもを育てるという精神的な負担の2つがかかるイメージ。
- 昔は女性側だけのイメージだったが、今は男性と女性が共同してやるイメージ。
- 子育ての知識がないまま親として不安になりながら取り組んでいそう。
→経済的、時間的、精神的に余裕がなく、虐待につながる。
- 教育費が高いから、教育を受けるのが大変。
- 公園遊具の減少など規制が増えている。
- 周りの人への協力が必要不可欠！
- 周囲の人間関係や施設が大切！
- 子どもが感じる「安心」が親の「安心」につながる社会を実現してほしい。

(4) 事業者

①概要

市内事業者

【対 象】 市内に本店又は支店を有する事業者

【日 時】 7月～8月 1社につき30分～1時間程度

【場 所】 市庁舎またはオンライン

【方 法】 インタビュー形式

【事業者数】 4社（株式会社オーディオテクニカ、株式会社ビックボイス、日本生命保険相互会社、野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社）

②主な意見

【質問1】 ワークライフバランスの実現のために取り組んでいること

- ・ 時差勤務、時短勤務
- ・ テレワーク
- ・ 子連れ出勤
- ・ 育児休業、看護休暇
- ・ 子ども手当、保育所利用補助

【質問2】 子育て中の従業員のためにやりたいと思っていること

- ・ 子育てをしながらの仕事のストレスの解消
- ・ 子連れ出勤、企業内保育所の導入
- ・ アフタースクールの対象の拡大

【質問3】 「子どもにやさしいまち」の実現のために、市などと協力できること

- ・ 市の事業についての周知の協力
- ・ 子ども向けイベントでの協力（ブース出展、インストラクターの派遣など）
- ・ 学校との協力（場所の貸出、部活の委託など）

5 総評

(1) 「子どもにやさしいまち」の具体的な姿

次期計画の基本理念である「子どもにやさしいまち」の具体的な姿（目指すコドマチ）（案）については、「やりたいことができる」「みんな笑顔」「安心して暮らせる」といった言葉が子どもたちから出てきたキーワードでした。この点については、大人や若者を対象としたヒアリングでも大きな差異はなかったため、この部分を活かした「目指すコドマチ」にする必要があります。

また、「やりたいことが叶う」については、「やりたいことがあるとは限らないから、“やりたいことを見つけられる”が良い」といった声が子どもたちからありました。「やりたいことができる」はどのヒアリングでも注視されていた部分であるため、この点についても「目指すコドマチ」に反映します。

(2) 2024年5月に実施したアンケート調査の補完

「子どもの居場所」については、「確保されている」と思っている人の方が多かったが、更なる充実が求められています。新しい場所を増やすというよりは、既存施設の運用を変更し、ニーズに合わせて使いやすくしてほしいという声が複数ありました。

「子どもが意見を言える機会」については、意見を言う場はあっても、その場を知らない人が多いことが問題として挙げられました。若者のヒアリングでは周知方法のアイディアも出てきたので、それを踏まえて、効果的な周知方法を検討する必要があります。

頂いた意見は次期計画の現状や課題として挙げつつ、今後の「子どもの参画」や「子どもの居場所づくり」の取組の参考にしていきます。

(3) 市以外の取組の現状・課題を把握

市内業者のワークライフバランスの実現のための取組については、企業ごとに特徴があったが、どの企業も他社の様子を知りたいと思っていることが共通していました。また、「子どもにやさしいまち」の実現のためにできることは1社だけでは考えが狭くなってしまうところがあるため、複数の企業で話せる機会があると良いという声がありました。

頂いた意見は次期計画に掲載することで、広く知ってもらう機会とします。